

令和5年3月10日

原村長 様

沖縄恩納村視察研修報告書

牛山 輝明

2/16～2/18 まで農業委員会の視察研修に同行し、沖縄県に行ってきました。

初日の2/16には、恩納村役場農林係 大城主事より説明を受け、恩納村のレタス栽培について研修、見学をしてきました。

平成27年より始まった取組は、川上村のレタス農家が指導に入り、取組面積も徐々に増えていきましたが、令和元年の150aをピークに現在では農家2名で約80aの栽培にとどまっています。

レタス栽培を阻害する要因として、①風速30mを超える海風が吹く（防風ネットを張るも効果なし）。②タイワンシログシラという害鳥にレタスを抜かれたり、糞により商品にならなくなる（防鳥ネットは風に飛ばされてしまう）。③販路が確立されない（「シンカレタス」としてブランド化し、直売所やホテルで販売するが、納入にばらつきがありうまくいかない）。

以上の3点が問題となっているが、現段階では解決の糸口をつかむことが困難な状況にあるという。栽培農家も高齢化しており、視察の中では今後のレタス栽培拡大は難しいのではと感じられた。

驚いたことは、レタスの苗木は役場の大城主事が育て、農家に提供していることであった。村ではこれだけ力を注いでいるが、栽培～販売までの問題を解決していくにはまだまだ時間を要すると思われた。

隣接する糸満市でもレタス栽培が行われており、恩納村ほど栽培を阻害する要因は少ないらしい。

沖縄本島内をバスで移動中、車窓よりところどころにレタス畑が見られたが、恩納村のレタスと比べ見栄え良く育っているように見えた。恩納村のレタス栽培への取組は7年目を迎えているが、川上村とは気象条件など様々な条件が違っている中での取り組みは評価すべき事例であり、今後の安定した収穫・販売が出来るよう期待したいところです。

原村においては、特産化した高原野菜や花きが沢山ありますが、連作障害や土壌の疲弊による作柄低下などの問題があり、今後高原野菜産地を維持するためには、恩納村のレタス栽培以上に研究すべき課題は山積かと感じました。